



田代Aマートのレジに長蛇の列 会話が弾んでしまい...

農村スポーツ
NOUSON SPORTS
2019年 1月28日 月曜日
No.2658号
https://www.nouson.co.jp ※このURLはなんちゃってです。

標高523mの山など、登山家からすれば緩やかな丘みたいなものだろう。だが今回重平山登山に挑んだ数十名のチャレンジャーは田代の庶民。登山家がキリマンジャロに挑むようなもの。登山家になぜ登るの？と聞けば「ここに山があるから」と答えるだろう。田代庶民の場合、そこに山があるからではない。その山頂に風車があるからだ。そう、重平山の山頂には一基2億〜3億と言われる風車が数基設置され、私たちの暮らしている。少なくてこの日の登山家の子ども達は皆風車目当てだったと思われる。登り始めは会話も弾み、時に走ってわんぱくぶりも見せていた。お年寄りも若者には負けまいと元気をふり絞っていた。

しかし徐々にしゃべらなくなる。そろそろ頂上！という雰囲気。3回程度訪れたがまだ着かない。するとほんの少しだけの空き地に皆が立ち止まった。休憩か。皆が水分を補給しかけたその時、リーダーが言った。「頂上に着きました！」含んだ水を一気に噴射した

挑戦

標高 523 M

真夜中の泥酔リヤカー

村長大荒れ



重平山を制覇した証を札に刻み、その証は今後長きに渡りこの地に足を踏み入れるであろう登山家達に脈々と語り受け継がれてゆく。そんな未来の登山家達に向け札に刻んだ言葉は「長谷川あおい」。

重平山

このままどこかへ連れて行け

2面



発表 農スポ大賞マサルさん



「第8回農スポ大賞」の受賞が田代青壮年部員の投票により決まった。歴代の受賞者は皆、春の改選で青壮年部長に就任しており、今回もそのジンクスが消える事はないと思われる。

「ここが頂上？」という子ども達の表情がわかりかきやすかった。ま、大人のジョークというやつで、もう少し歩くパークインだろうと思いを上上げる。白い巨塔、ジャンボなトリプルウイングがスピニング中であつた。「頂上に着きました！」はジョークではなかった。とりあえずお目当ての風車を間近で見ようと危険極まりない急斜面を下り、巨大ロボ、いや、巨大風車を見上げた。「回ってる・・・」皆がそう思った。目標は達成した。さあ、次の場所を選んでいるとリーダーが言った。「寒いから下りて公民館で食べましょう！」もう下山？という子ども達の表情がわかりやすかった。今回初めての体験で「思ってたんとちゃう」登山だったが、食後の子ども達が喜ぶ褒美グッズ配布タイムを見ていると「そこに風車があるから」ではなく「後でご褒美をもらえるから」であつた事がわかり納得した。もし次回があるとなれば超高価な褒美で子ども達に「思ってたんとちゃう」と言わせてほしい。

長谷川 優さん